

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	新 生 ク ラ ブ
出席者	秋山祥司 功刀正広
事業名	ものづくり教育 について
事業区分	①研究研修 ②調査

1. 韮崎市での課題と研修・調査の目的

本市においては、次世代を担う心豊かでたくましい人を育てることを目標に特色ある教育内容として英語科教育の推進や読書活動の推進、学力の向上に努めてきた。
韮崎市には武田八幡宮や新府城など歴史ある風土の中、地域を理解し、郷土を愛する気持ちを身につけていくことも必要があると考え、地域の特色を生かしたものづくり教育を行っている諏訪市を視察した。

2. 実施概要

実施日時	平成31年 2月 7日(木) 10:00 ~ 12:00
視察先	諏訪市
担当部局	教育委員会
報告内容	<p>製造業を中心に発達してきた諏訪市で子どもたちが「ものづくり」への興味関心を高め、基本的な技術を習得するとともに、思いやりの心を育て地域を理解し、郷土を愛する気持ちを身につけていくことを目標とし、平成15年に地域密着型ものづくり講座を始め、ものづくり教育がスタートした。</p> <p>平成16年に地元の企業と教育現場(学校)と行政で「ものづくり推進協議会」を立ち上げ、三者が連携を図りながら協力して小中学校の「ものづくり教育」を推進し、次世代の継承にも取り組んでいるとのことであった。また、学校における「ものづくり教育」の推進には興味・関心や楽しさだけでなく、意図的・計画的にもものづくりを通して人づくりを推進しなくてはならないという考えに立ち、平成20年より「相手意識に立つものづくり科」の学習が開始された。</p> <p>ものを使う相手意識に立つことにより制作段階から要望を聞き、想いを具現化し一度目の制作をし相手に贈る。使った感想を聞き一度目の制作を振り返り、二度目の制作をし相手に再び贈る。そうしたものづくりが喜ばれた体験へとつながり、思いやりのある心、心配り、創意工夫の力、課題解決力など生きる力を育むことが出来たとのことであった。</p>

1. 感想（まとめ）

諏訪は江戸時代より伝統の養蚕が行われ、明治に入り製糸業が盛んとなった。また、昭和の高度経済成長期には精密工業の発展や精密工業で得られた技術を活かし、電子や情報・自動車部品などの分野に進出した。

そして、近年ではマイクロエレクトロニクス化にも対応するなど時代の要請に応じた多様な製品の生産を行ってきた。そのような歴史の流れがあるなかで学校教育において「ものづくり教育」に取り組むことは、子どもたちに生きる力を与えるとともに将来の進路へも良い影響を与えるのではないかと思った。そして、ものづくり教育を受けて育った子どもたちが、地元に戻り就職をするという効果も生まれるのではないかと予想される。現時点ではものづくり教育を受けた子どもが諏訪市に戻っているかどうかの検証はされていないとのことであった。しかし、大学を卒業見込みの学生からは是非、諏訪の学校に赴任し「ものづくり教育」を子どもに教えたいという学生がいるという話を伺った。

韮崎市においても特色ある学校教育を通して多くの子どもたちが故郷に戻ってきてもらいたい。

2. 考察（これらの取り組みを韮崎市にどう活かせるか）

韮崎市には武田八幡宮や新府城など歴史ある史跡がある。また、穂坂のブドウや新府や大草の桃など農産物の特産物も数多くあり特色ある市である。しかし、子どもたちは学校を卒業すると市外や県外へと就職をすることが多い。韮崎市の歴史や文化を踏まえる特色のある教育を行うことで、地域を理解し、郷土を愛する気持ちを身につけていくことに繋がると考える。

